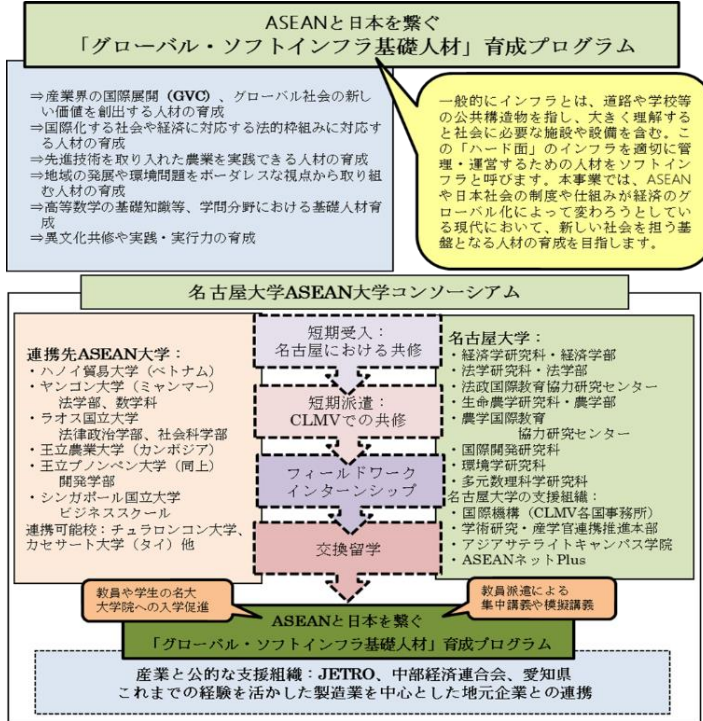


# 大学の世界展開力強化事業(平成28年度採択) 名古屋大学 取組概要

【事業の名称】(選定年度28年度・(タイプB ASEAN))  
**ASEANと日本を繋ぐ「グローバル・ソフトインフラ基礎人材」育成プログラム**

## 【事業の概要】

本事業では、高い技術や知識を持った人材が、ボーダレス時代に必要とされている「グローバル・ソフトインフラの基礎力」を身に着けることで、新しい社会に貢献できる人材へと成長を促すことを目標とする。



## 【交流プログラムの概要】

本事業では、本学がこれまで培ってきたCLMVとの研究教育活動を基盤とし、国の枠組みを超えた問題を経営・経済・法律・政治・環境、農業や高等数学の専門基礎力等、学問的な能力とグローバル・ソフトインフラ人材の基礎力を養成する。さらに、これらの問題に直面している企業や公的機関と連動した体験型教育の実施を通して、実践的な人材の育成を目標とする。

## 【本事業で養成する人材像】

本事業では、ASEAN、特に経済的な後進国であるCLMVや日本を含めたアジアで活躍する「グローバル・ソフトインフラ基礎人材」の育成を目指す。具体的には、ASEANの中でも急激な変化により発展を遂げようとしているCLMVと日本の関係を構築し、多国籍企業や公的機関で活躍できる人材の育成を目指す。

## 【本事業の特徴】

本事業では、経済や法律、さらに社会構造の基盤をなす、経済、法律、政治、国際協力、環境、農業等の幅広い分野の知識を持ち、現実社会での実践的対応力をソフトインフラと定義している。

各プログラムの中で、コミュニケーション能力の強化や関連する専門分野の講義を提供を行う。これにより、専門基礎力とグローバル・ソフトインフラ人材の基礎力が養成され、産学連携による体験型教育を通じて、学識を実践で活用する経験ができる。また、日本人とASEAN学生と一緒に学ぶ、多文化協働能力の向上ができる。

## 【交流予定人数】

<タイプB>

	H28	H29	H30	H31	H32
学生の派遣	36	59	65	62	65
学生の受入	4	41	42	43	42

# 1. 取組内容の進捗状況(平成28年度)

## 【ASEANと日本を繋ぐ「グローバル・ソフトインフラ基礎人材」育成プログラム】

(選定年度28年度・(タイプB ASEAN))

### ■ 交流プログラムの実施状況

#### ○カンボジア派遣研修プログラム

参加学生は異国の農業を実際に目にする事で、農学に関する専門的知識を身につけた。研修中に訪問国の同年代の学生と英語で討論し、文化の異なる背景をもつ外国人学生との共同作業の経験を積み、国際的な視野が育まれた。グループワークでは、計画立案や成果の取りまとめの討論を通じて協調性を養うとともに、相手の意見をよく聴いて成果をまとめ上げるチーム力・相互理解力を身につけた。



〈カンボジアでのフィールドワーク〉

#### 交流プログラムにおける学生のモビリティ

#### ○ 日本人学生(名古屋大学の正規生)の派遣

平成28年度は、7カ国へ名古屋大学の正規性を派遣するプログラムを実施した。ベトナム短期派遣プログラムに23名、カンボジア(タイ)派遣研修プログラムに37名、シンガポール短期派遣プログラムに5名、ミャンマー・ラオス短期研修派遣プログラムに6名、カンボジア研修派遣プログラムに2名を派遣し、総計73名派遣することができ、計画を大きく上回ることとなった。

〈タイプB〉

	H28	
	計画	実績
学生の派遣	36	73
学生の受入	4	4

#### ○ 外国人留学生の受入

平成28年度は、ラオスから短期学生受入プログラムとして2名、ベトナムから交換留学生を2名受け入れた。

平成29年度にはベトナム、カンボジア、ミャンマー、シンガポールから学生の受入を行うことを、平成28年度中の交渉により既に決定している。



〈交流継続協定調印式 シンガポール国立大学にて〉

### ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

具体的なプログラム実施に向け連携校との対話を進め、各々の国における高等教育制度の相違を踏まえ、効果的な教育プログラムの実施を計画・運営している。

### ■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

本事業の採択を契機に大学として全ての学生に適應する「安全・危機管理オリエンテーション」を設置し、平成28年度はできるだけ学生に参加するよう指導し、平成29年度からは義務化することとした。これにより、プログラム実施の担当者だけの危機管理ではなく、何かあれば大学として全面的に支援する仕組みが完成した。

### ■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

HPを開設し、参加学生への情報提供と共に、本事業の情報公開を目的としている。広報資料として本事業のポスターによりプログラムの周知を拡大した。さらに情報資料によりプログラムの趣旨や内容を理解できるようにした。報告書の作成により成果の普及を行った。平成28年度の報告書は、印刷して関係機関に配布したほか、HPにもPDFを添付し、広く周知できる仕組みを取った。

### ■ グッドプラクティス等

#### ○ビジネスプラクティスワークショップ

愛知県やJETRO名古屋の協力の下、ビジネスプラクティスワークショップを開催することができた。このワークショップは、東南アジアへの進出を実施、または計画している地元企業から現在抱えている現地での課題が提示され、留学生と日本人学生たちが共修を通して解決方法について提案するものである。この取り組みはJETROでも高い評価を受けており、今後も日本企業の海外進出の支援策として新しい産学連携ができるのではないかと期待される。